

令和4年度第1回埼玉県職業能力開発審議会 議事録

開催日：令和4年7月22日（金）午前10時30分～12時

場 所：埼玉県立川口高等技術専門校 4階講堂

出席者：権丈 英子 委員（会長）、嶋田 俊幸 委員、高尾 愛子 委員、
小松 君恵 委員、岡田 静佳 委員、岩脇 千裕 委員、
久知良 俊二 特別委員

（委員10人中7人が出席し、会議は成立）

欠席者：原 恵美子 委員、河野 哲士 委員、古西 美佐子 委員

傍 聴：なし

事務局：山野 隆子 産業労働部雇用労働局長

産業人材育成課 植竹 眞生 課長、白石 直哉 副課長

長島 良江 主幹、秋葉 清和 主幹

川口高等技術専門校 碓井 誠一 校長

【議事等の経過】

- 1 開会（司会進行 産業人材育成課：白石副課長）
- 2 挨拶（山野隆子雇用労働局長）
- 3 委員及び事務局の紹介
- 4 議事

議事録署名人の選出

○権丈会長（以下、「会長」）

最初に議事録の署名人の指名をさせていただく。高尾委員と小松委員にお願いしたい。

（各委員了承）

（1）「第11次埼玉県職業能力開発計画」の概要について

（資料1-1、1-2により、産業人材育成課長が説明。その後意見交換が行われた。）

○岡田委員

以下の2点について質問する。

- ① 資料1-2の就職氷河期世代に職業訓練の優先枠設定とあるが、どのような優先枠で、何人くらいの方がどういう受講をされたのか。
- ② また、実際に就職に結びついた人数はどのくらいの割合か。

○産業人材育成課長

- ① 1年コース、短期コースの中に就職氷河期世代の優先枠が置かれている。定員は1割。30人の定員であれば3人である。

実際の就職氷河期世代の入校者は、令和3年度でビル管理科6名、機械科2名、金属加工科1名、電気設備管理科2名の計11名である。

また、委託訓練でも、就職氷河期世代の優先講座を設けている。年間で150講座ほどである。令和3年度の入校者は355名である。

- ② 1年コース、短期コースの就職氷河期世代のみの就職率は個別に割り出していないが、全体の就職率は93～94パーセントとなっているため、高い数値であることは推測できる。

(2) 埼玉県公共職業訓練実施状況について

(資料2-1、2-2、2-3、2-4により、産業人材育成課長が説明。その後意見交換が行われた。)

○小松委員

以下の3点について質問する。

- ① 資料2-1の委託訓練はどのくらいの委託先で県内のどのような場所で行われているのか。
② 実施場所は一覧で分かるようになっているのか。
③ 求職者訓練全体の受講者の女性の割合はどのくらいか。

○産業人材育成課長

- ① 講座数や講座の受講可能人数は各地で異なっているが、おおよそ年間で6500人分である。介護、ITはそれぞれ約2000人分である。また、障害者向けの講座を除いた一般講座のみで年間350講座程度実施している。

- ② 実施場所については、募集案内を毎月発行しており、そちらで掲載されている。県内各地で満遍なく実施している状況である。

- ③ 高等技術専門校で実施している訓練は、金属加工科や機械科といった科目であり男性の割合が圧倒的に高い。そのため、女性は1割程度である。
一方、委託訓練は事務的な訓練が多いため、女性は7割程度である。委託訓練は年間約6500人分の訓練を実施しているため、求職者訓練全体で考えると女性の割合が高くなっている。

○岩脇委員

資料2-1の高等技術専門校の就職率が令和元年に下がったが、2年で復活できた背景や要因は何か。特別なプログラムを構築したのかお聞きしたい。

○産業人材育成課長

要因としては、新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたことにより社会情勢が変わってきたということではないかと考えられる。

○会長

以下の3点について質問する。

- ① 高倍率である応募（例えば情報処理科等）についてはどのような形で選考しているのか。
- ② 試験結果のみの選考で、個人の事情は考慮していないのか。
- ③ 応募倍率が高かったときの生徒は就職率が良いというような傾向はあるのか。

○産業人材育成課長

- ① 選考試験を実施している。科目により異なるが、試験内容は国語や数学の筆記試験である。
- ② そのとおりである。
- ③ 応募倍率と就職率の因果関係は見られない。就職率はどの訓練も比較的高い傾向があるため、そのような影響はないと考えられる。

(3) 川口高等技術専門校の概要について

(資料3により、川口高等技術専門校長が説明、校内を視察後、意見交換。)

○嶋田委員

以下の2点について質問する。

- ① 外国人向けに技能検定等の講習や講師の派遣等を実施しているとあるが、外国語しか話すことができない人に対応ができてしているのか。
- ② 技能検定受検対策について筆記試験対策も実施しているのか。

○川口高等技術専門校長

- ① 技術的なコミュニケーションは外国語では難しい部分もある。しかしながら、高等技術専門校の非常勤講師は、実際に民間企業の海外での工場勤務において外国人の職員に対する指導を行ってきており、機械の単語や図解で示すというような教え方をして対応している。そのため、通訳を介することがなく、対応はできていると考えている。
- ② 筆記試験は外国人技能実習生向けについては実施していない。主に、旋盤やフライス盤の実際の運用方法を教えている。

○高尾委員

ビル管理科が人手不足であると同時に就職率は75パーセントとあるが、この理由を詳しくお聞きしたい。

○川口高等技術専門校長

ビル管理科の募集は年齢不問であるため、比較的高い年齢の方の応募が多い。しかしながら、ビル管理業界は大体ビルの制御室や管理室に勤務するため、24時間3交代制となり、夜勤も多い。そのため、自身の健康面等の不安から就職をためらってしまうこともある。ビル管理の求人自体は多いが、訓練生のニーズと処遇の問題でマッチングがうまくいっていないというのが現状である。

○岡田委員

高等技術専門校を知らない人も多いのではないかと考えられるため、高校などにもっと宣伝をしてはどうか。

○川口高等技術専門校長

その点は大きな課題だと認識している。現状、各高等学校へ産業人材育成課を通じてパンフレット等を配布しているが、それだけでは内容が分かりかねるため、それぞれの専門校が圏内の高校へ訪問し、進路指導の先生に説明をしている。また、反対に高校の先生方に専門校へ来校していただき、実際に訓練の様子を見ていただいてもいる。しかしながら、進路指導の先生が人事異動等で変わってしまうと一連の流れが終わってしまうという問題があるため、引き続きPRに努めていきたいと考える。

○小松委員

離職率はどのくらいか。

○産業人材育成課長

訓練が終了し就職してから3年後の調査を実施している。年により異なるが85パーセント程度は就職先に定着している状態である。実際に、機械科では8か月専門校で訓練をし、残りの4か月は企業先で給与を受け取りながら働くというような取組を実施しているため、これらが良い影響になっているのではないと考えられる。

○川口高等技術専門校長

訓練が終了し就職してから1、2年後にも卒業生と就職先の企業向けにアンケートを実施し、フォローアップも務めている。

○会長

以下の2点について質問する。

- ① 卒業してからしばらく経った卒業生に何かコンタクトをとって話を伺うようなことはされているか。
- ② 社会が自動化、デジタル化していく中で機械に対する需要が変わってしまう可能性はあるか。

○川口高等技術専門校

- ① 就職が決まっていない卒業生に対しては、卒業してから2, 3年経ったとしてもフォローアップを実施している。
- ② 製造業全般について、自動化が進んではいるが全て人間の手による作業が必要ないというところまでは到達していないと実感している。新しい機械が導入されたからといって、技能の必要が全てなくなるわけではないと考えている。そのため、求人ニーズは減らないのではないかとと思われる。

(4) その他

○会長

議事4 その他について、事務局から何かあるか。

○産業人材育成課長

今回いただいた御意見について、公共職業訓練や職業能力開発に活かしていきたい所存である。

○会長

以上で本日の審議会は終了とする。